

事務連絡
令和5年11月8日

各正会員
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会
専務理事 室石 泰弘

産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2023年7-9月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第119号(令和5年10月2日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2023年7-9月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2023年10-12月期)につきましては、令和6年1月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2023年7-9月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は276社から回答があった。景況判断DIは▲16となり、前期調査から2ポイント改善した。来期の見通しは▲13となり、3ポイント改善する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「従業員の不足」の回答割合が最も高かった。「その他」の記述回答では、物価の高騰、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

前期(2023年4-6月)に対して、

- ・売上高DIは▲4で、12ポイント改善
- ・処理量DIは▲8で、7ポイント改善
- ・営業利益DIは▲12で、4ポイント改善
- ・資金繰りDIは0で、3ポイント改善
- ・借入難易度DIは8で、2ポイント改善
- ・設備投資DIは8で、8ポイント改善
- ・従業員数DIは▲1で、3ポイント悪化
- ・契約単価DIは、収集運搬が7で、1ポイント改善
処分が6で、2ポイント悪化

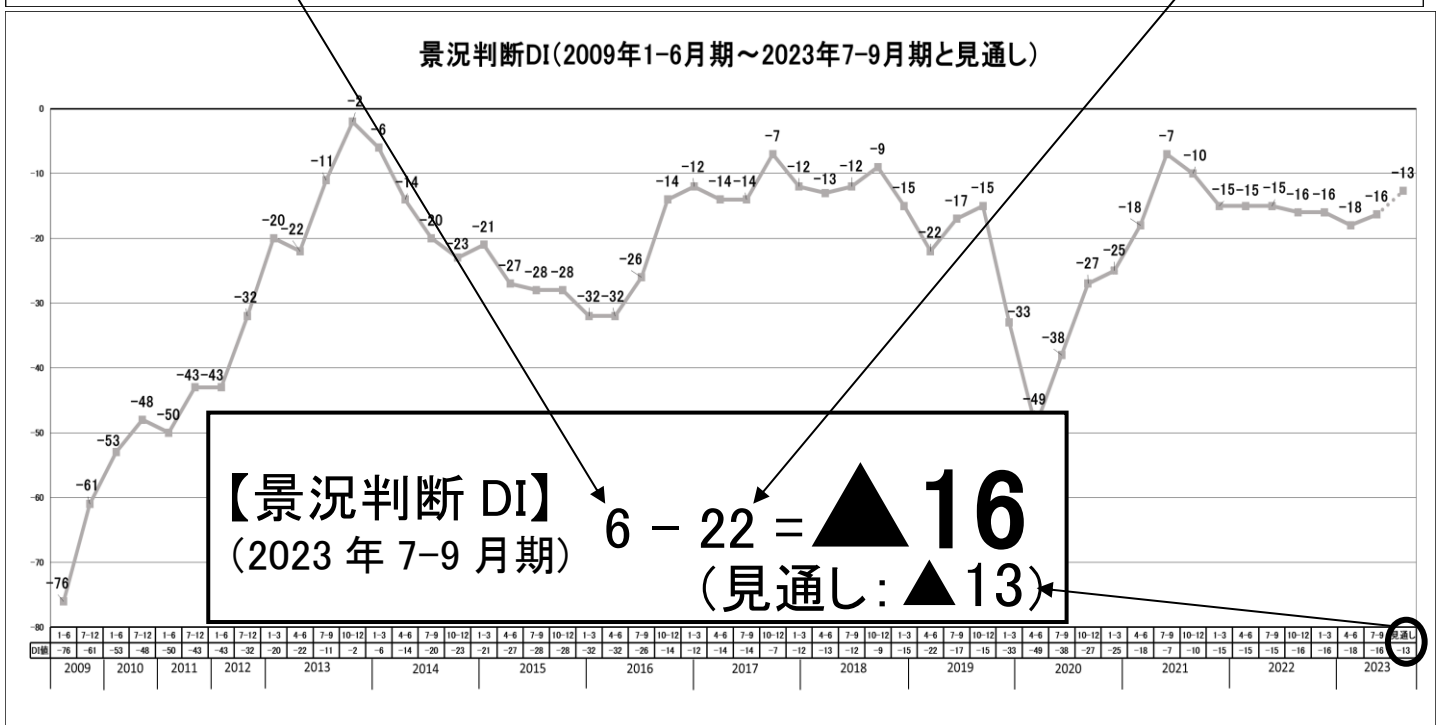
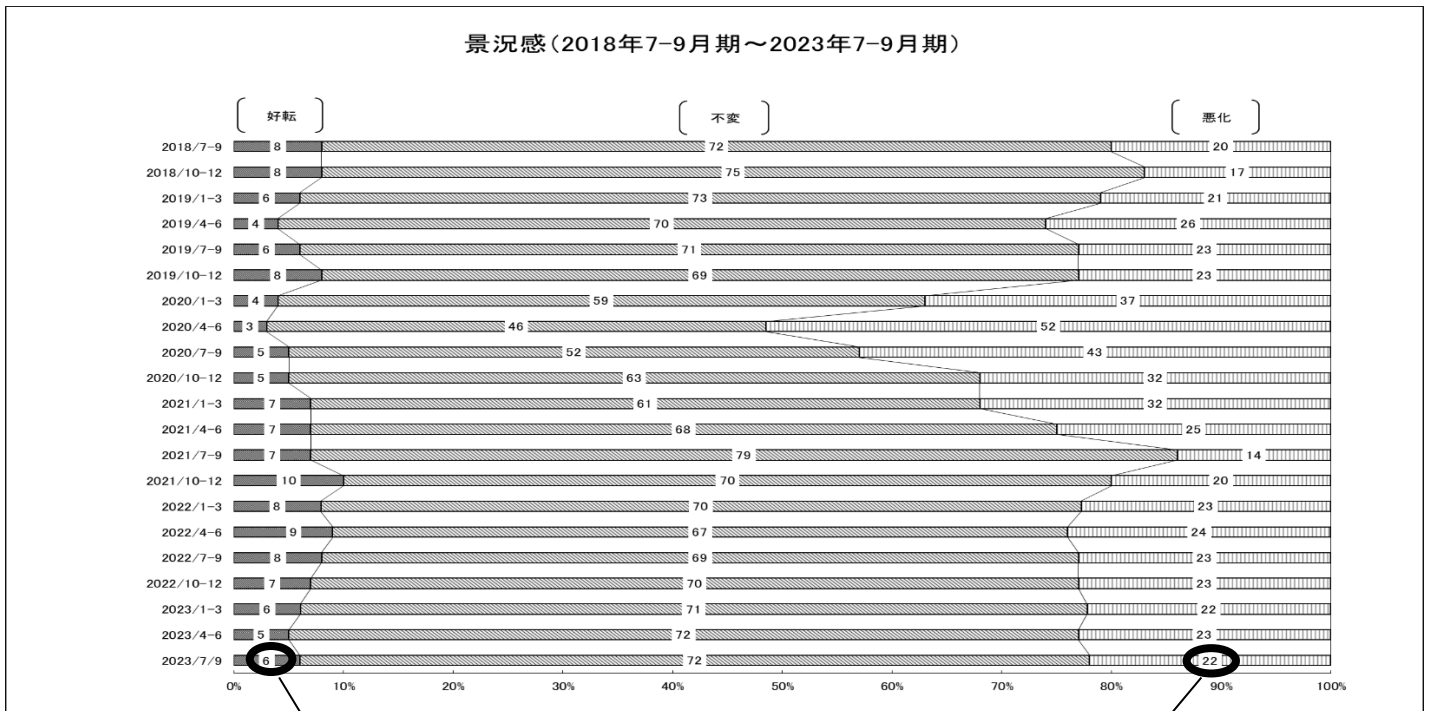
- 売上高の動向については、前年同期比で5.3%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比で13.5%減となった。
- 経常利益率については、前年同期比で1.9%減となった。

※DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」「増加」したなどとする企業割合から「悪化」「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

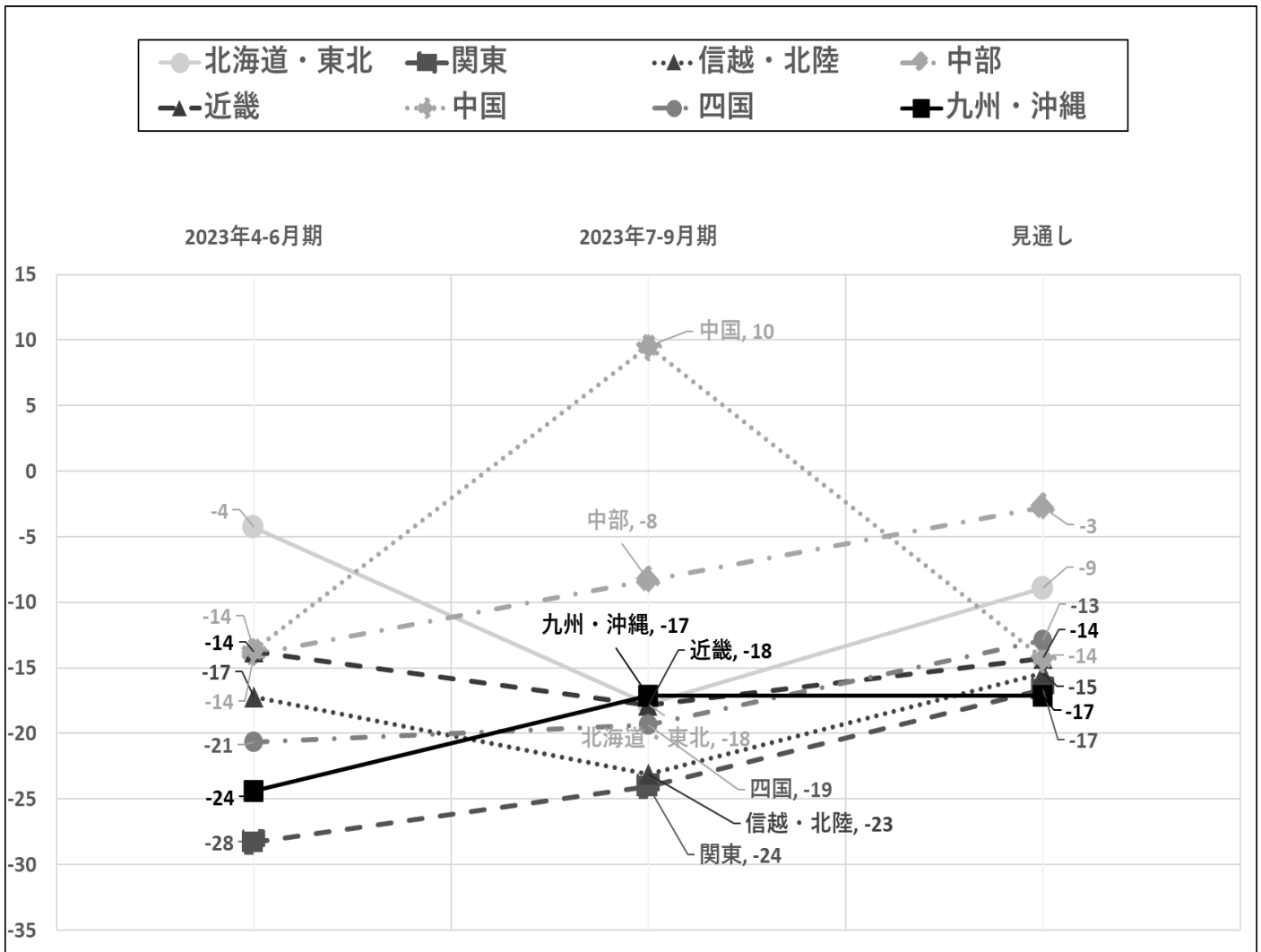
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲16 となり、前期から 2 ポイント改善した。
見通しは▲13 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「関東」、「中部」、「中国」、「四国」、「九州・沖縄」が改善した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「北海道・東北」、「関東」、「信越・北陸」、「中部」、「近畿」、「四国」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



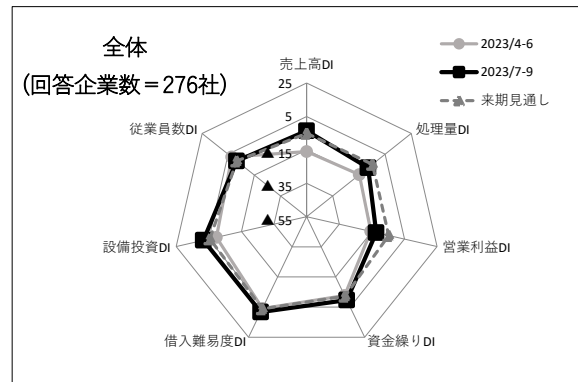
地域別景況判断 DI



	全体平均	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2023年4-6月期	-17	-4	-28	-17	-14	-14	-14	-21	-24
2023年7-9月期	-15	-18	-24	-23	-8	-18	10	-19	-17
見通し	-13	-9	-17	-15	-3	-14	-14	-13	-17

(2)売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

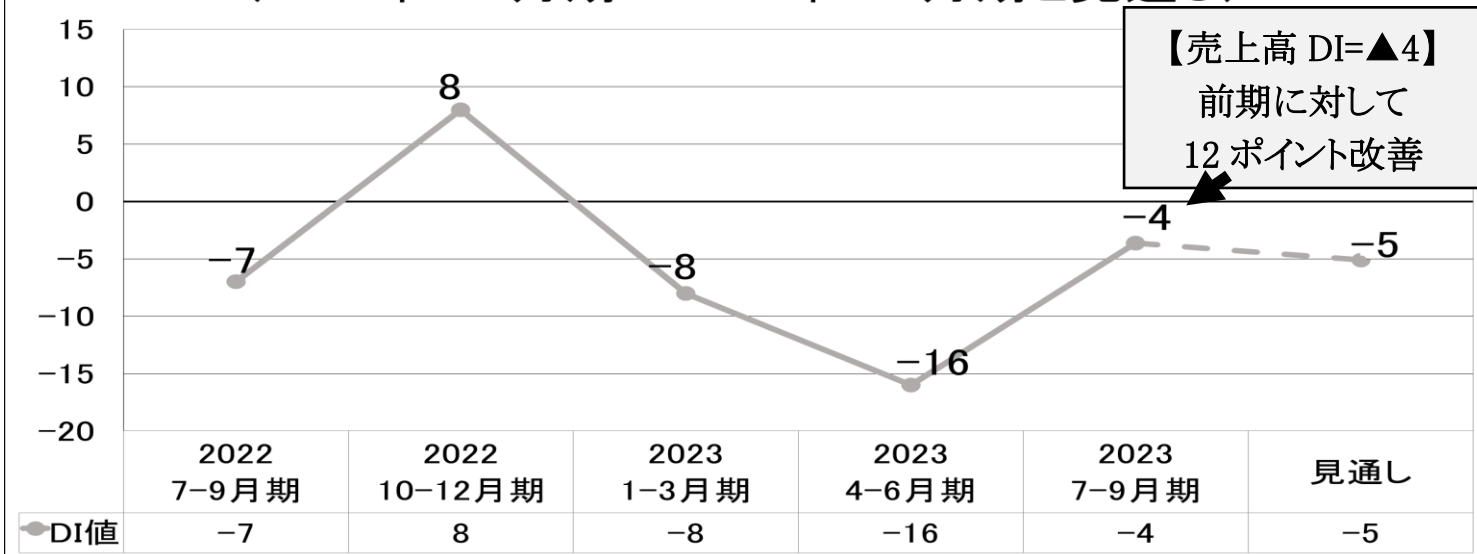
- 前期から従業員数 DI のみが悪化した。
- 見通しは、処理量 DI、営業利益 DI、設備投資 DI で改善する見込みとなっている。



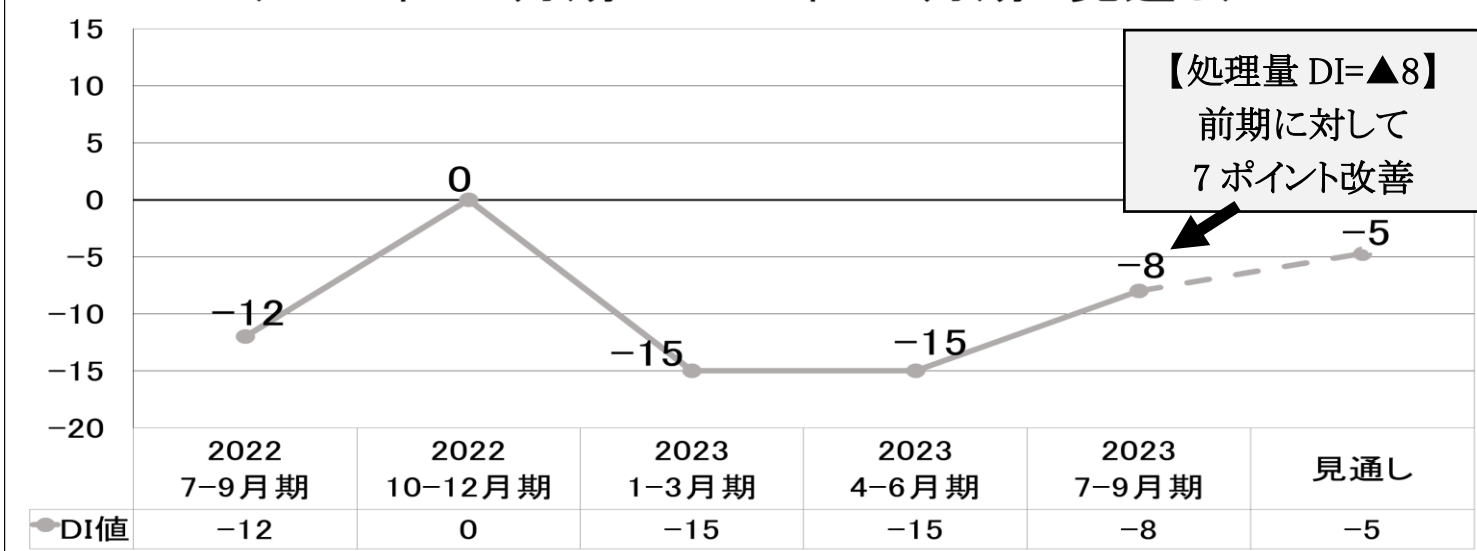
以下詳細(5~7 ページ参照)

- ・売上高 DI は▲4 となり、前期と比べて 12 ポイント改善した。
見通しは▲5 となり、1 ポイント悪化する見込み。
- ・処理量 DI は▲8 となり、前期と比べて 7 ポイント改善した。
見通しは▲5 となり、3 ポイント改善する見込み。
- ・営業利益 DI は▲12 となり、前期と比べて 4 ポイント改善した。
見通しは▲5 となり、7 ポイント改善する見込み。
- ・資金繰り DI は▲0 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは▲2 となり、2 ポイント悪化する見込み。
- ・借入難易度 DI は 8 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。
見通しは 6 となり、2 ポイント悪化する見込み。
- ・設備投資 DI は 8 となり、前期と比べて 8 ポイント改善した。
見通しは 4 となり、4 ポイント改善する見込み。
- ・従業員数 DI は▲1 となり、前期と比べて 3 ポイント悪化した。
見通しは▲1 となり、同水準となる見込み。

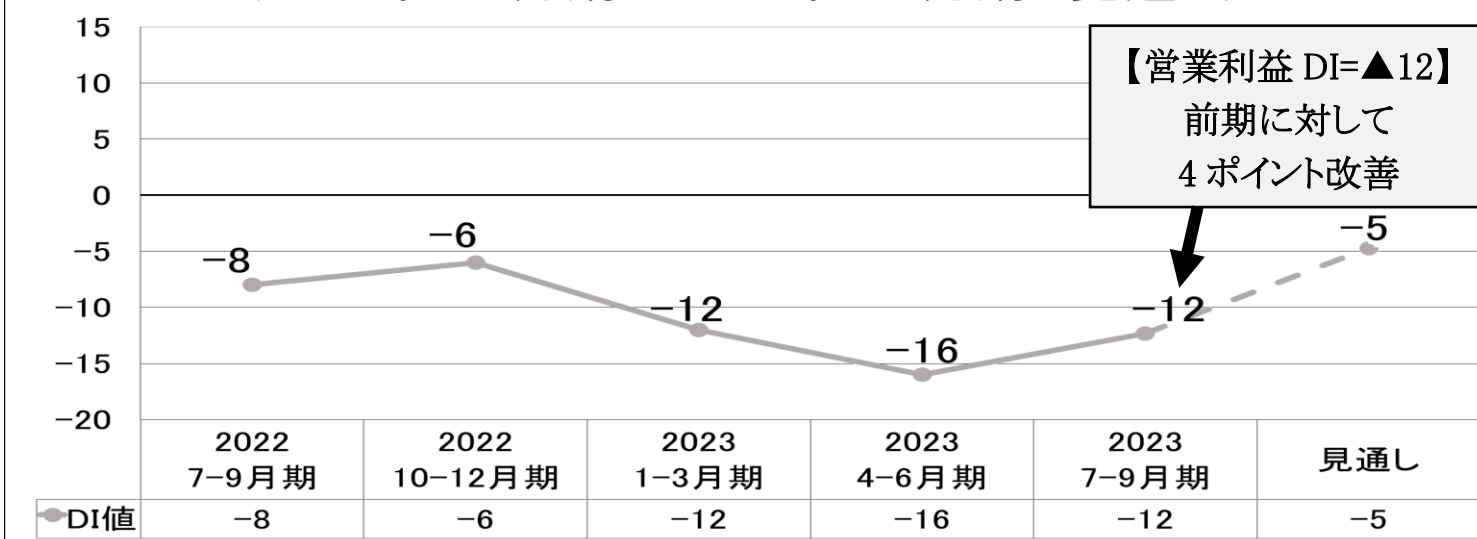
売上高DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



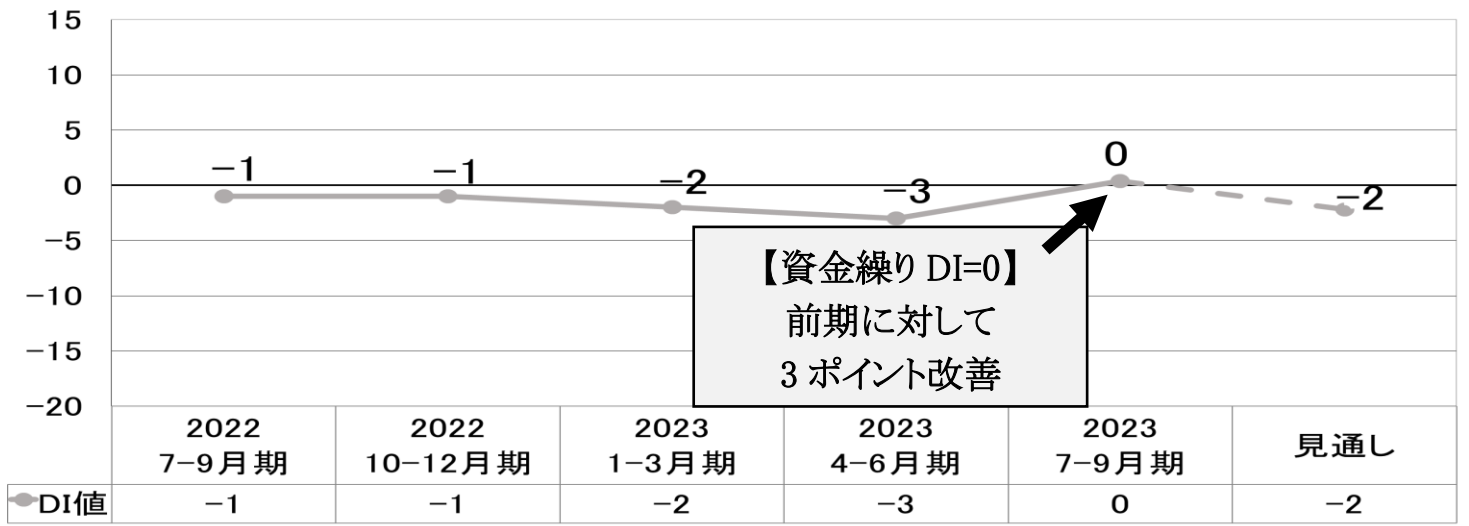
処理量DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



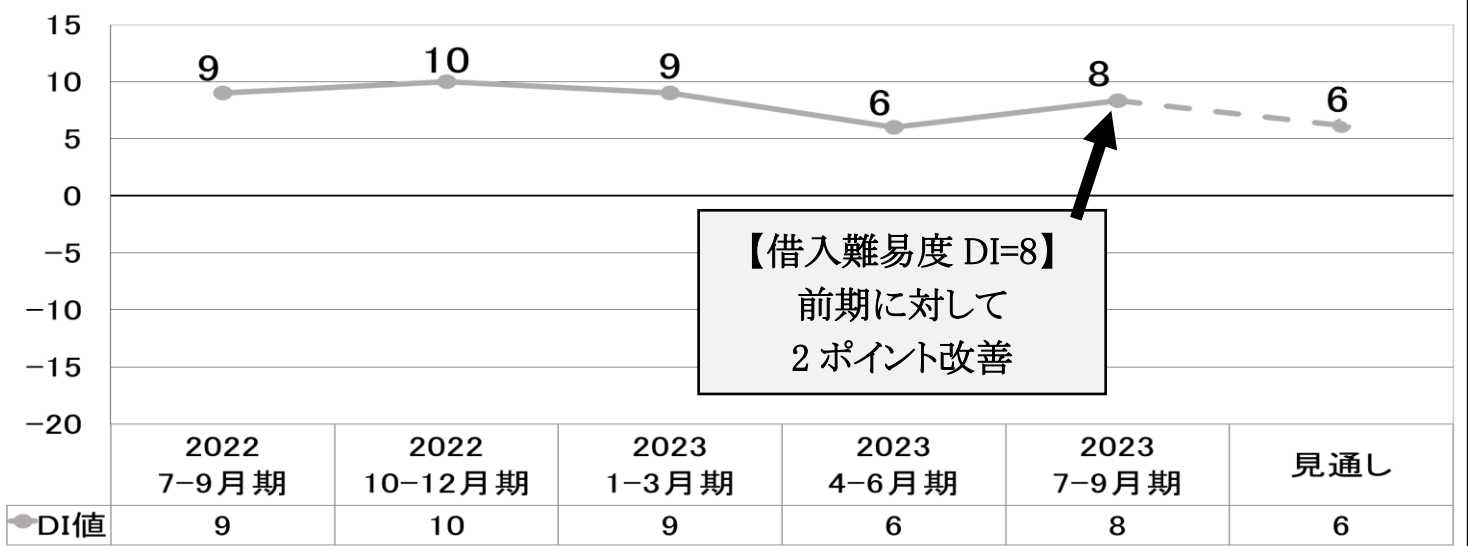
営業利益DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



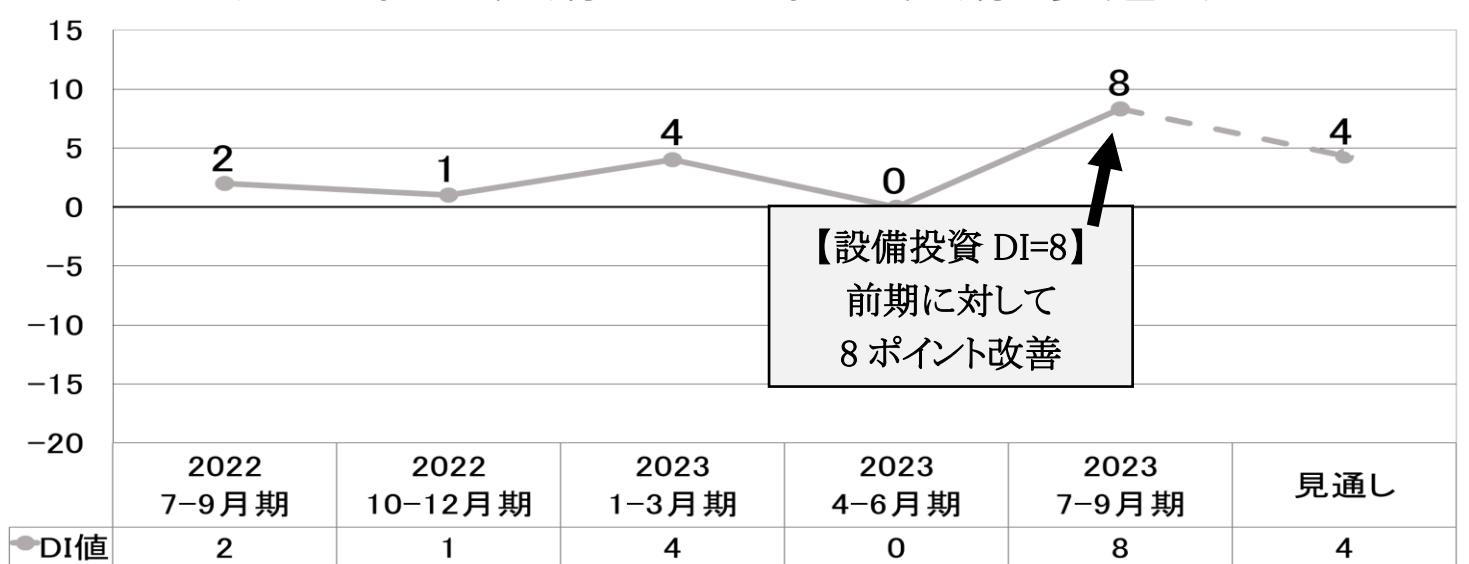
資金繰りDI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



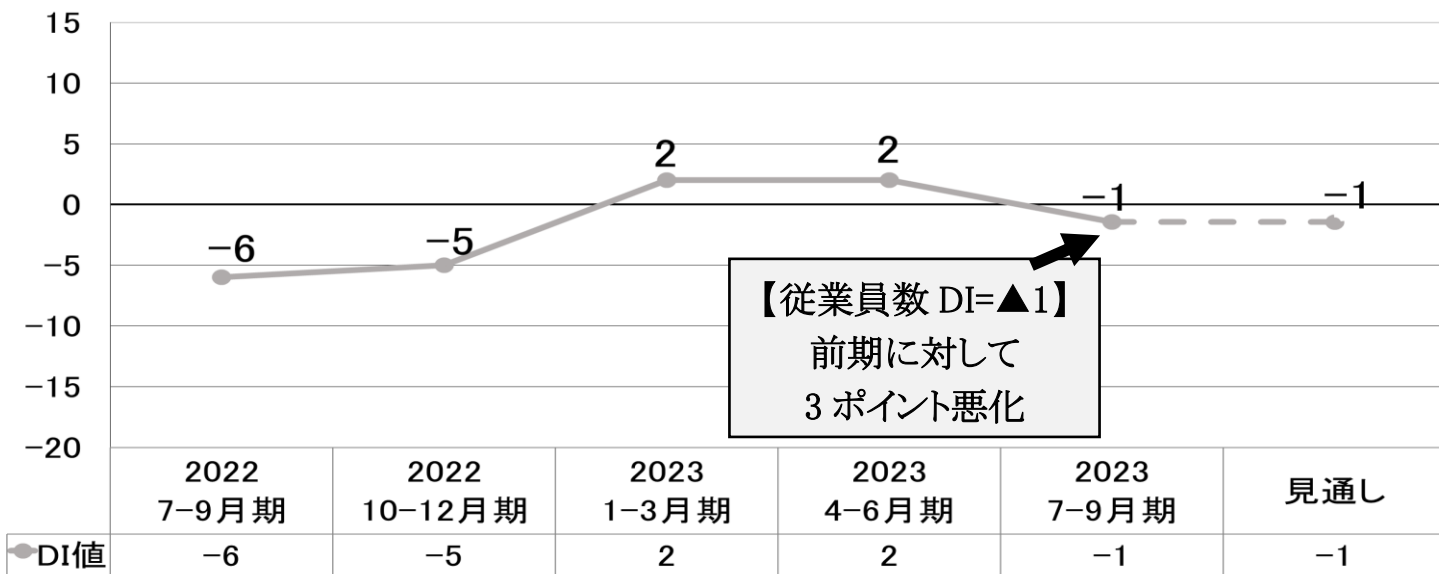
借入難易度DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



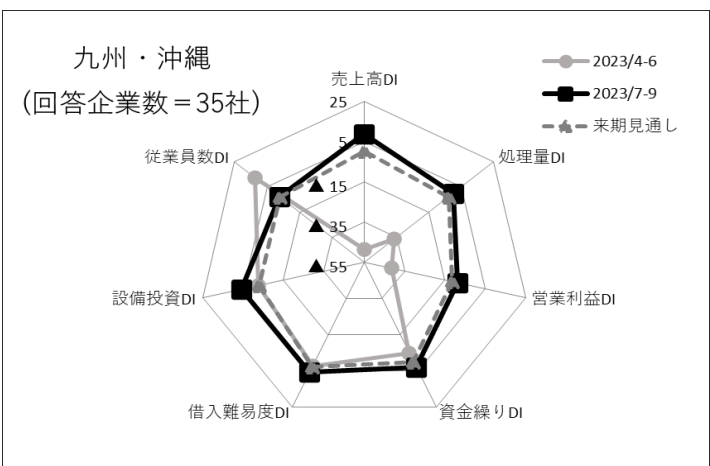
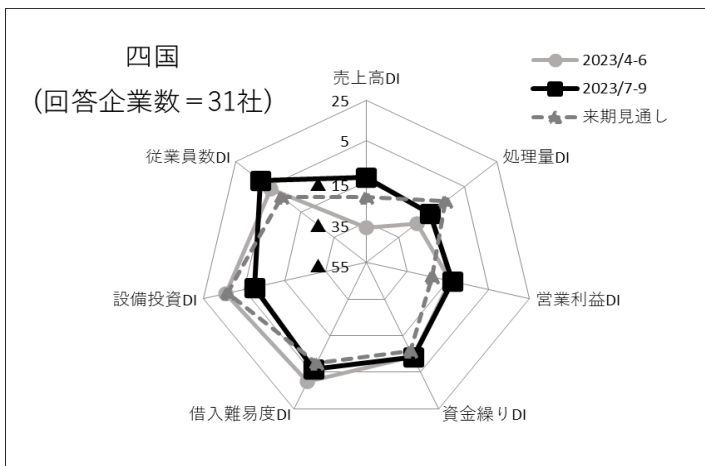
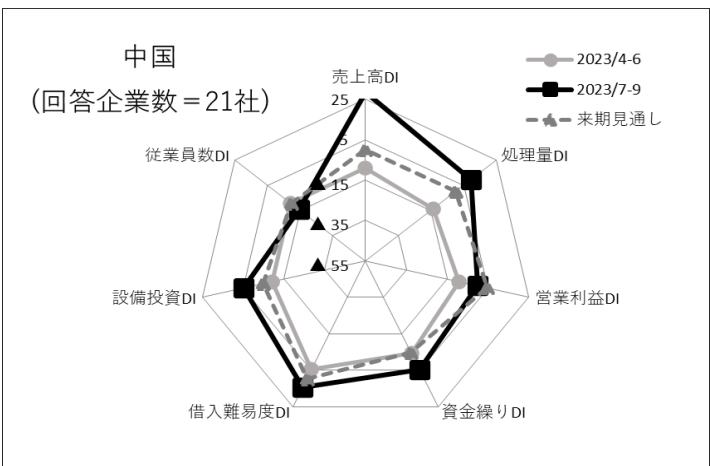
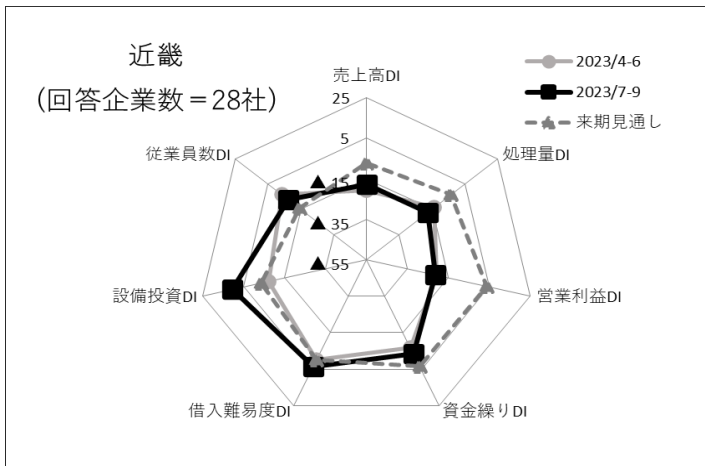
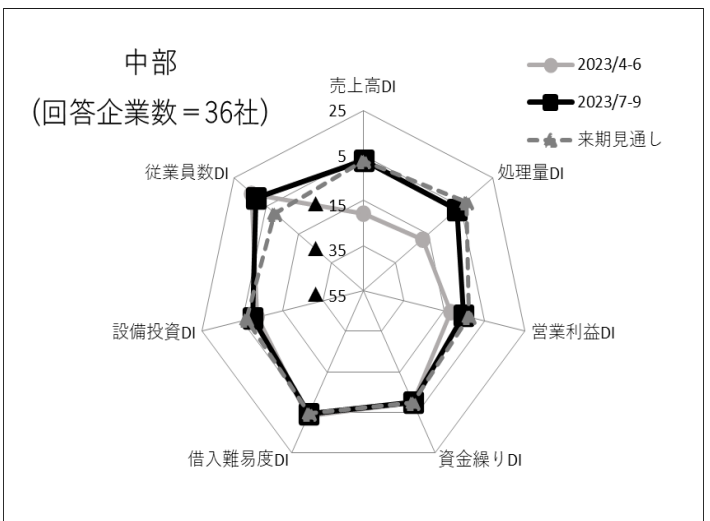
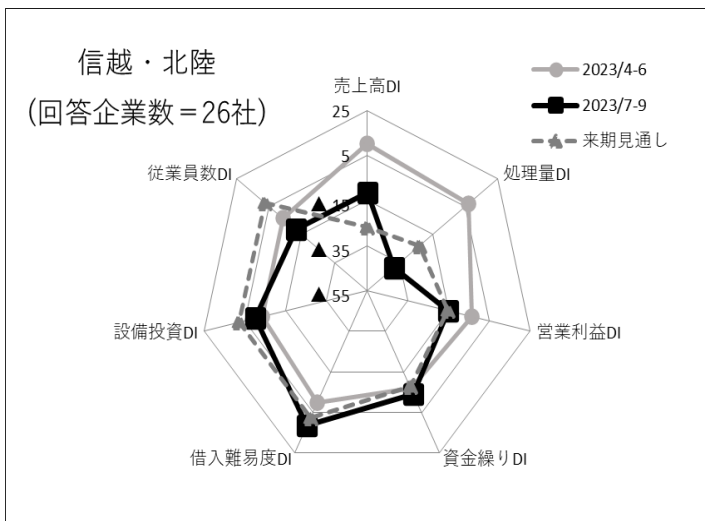
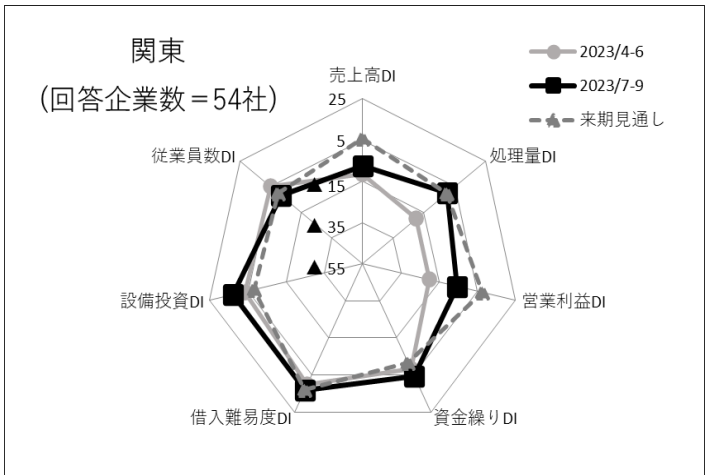
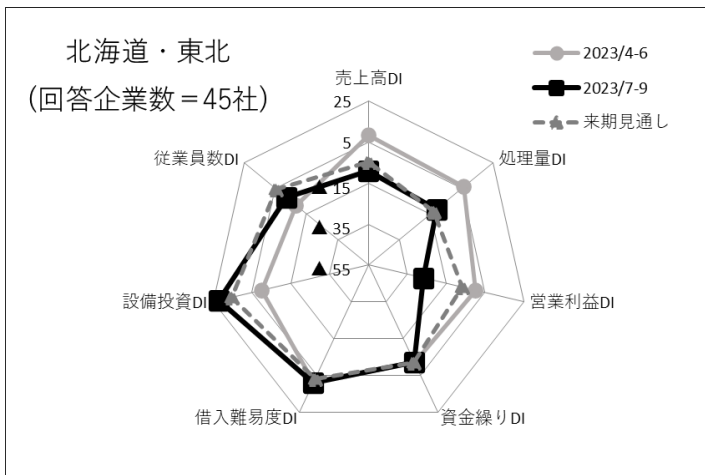
設備投資DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)



従業員数DI (2022年7-9月期～2023年7-9月期と見通し)

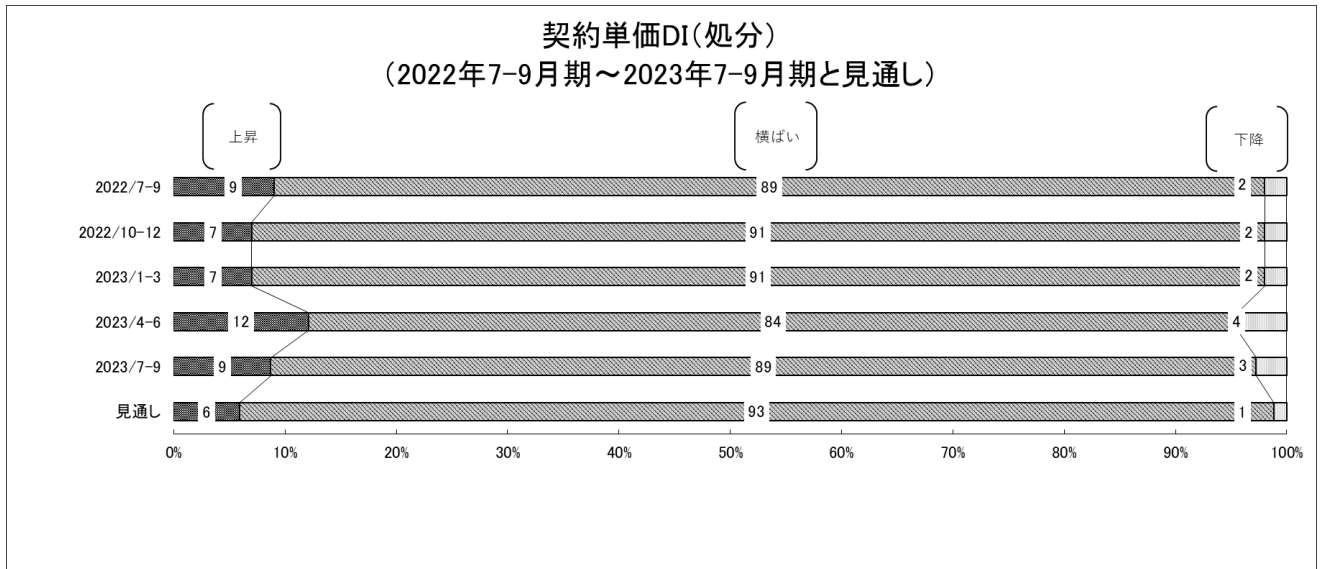
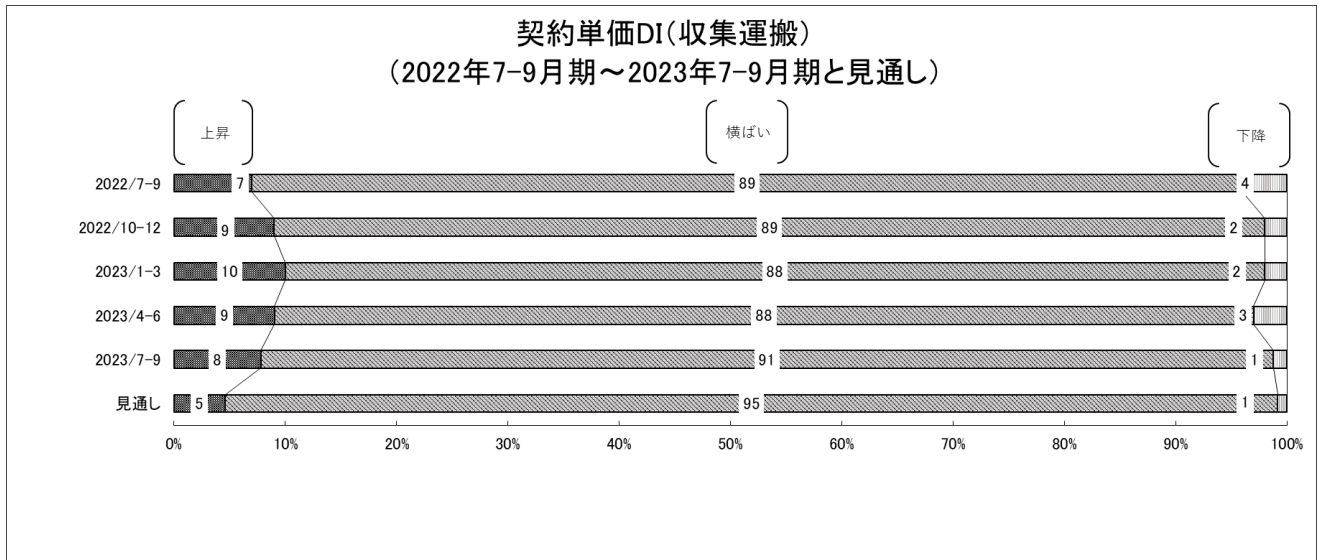


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 7 となり、前期と比べて 1 ポイント改善した。
見通しは 4 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 6 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは 5 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、5.3%増となった。

有効回答数:142社

単位:千円

前年売上高	2022年7月	2022年8月	2022年9月	平均
	8,764,133	8,390,010	8,545,304	8,566,482
今年売上高	2023年7月	2023年8月	2023年9月	平均
	9,177,082	8,683,788	9,207,015	9,022,628
前年比	4.7%	3.5%	7.7%	5.3%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、13.5%減となった。

有効回答数:142社

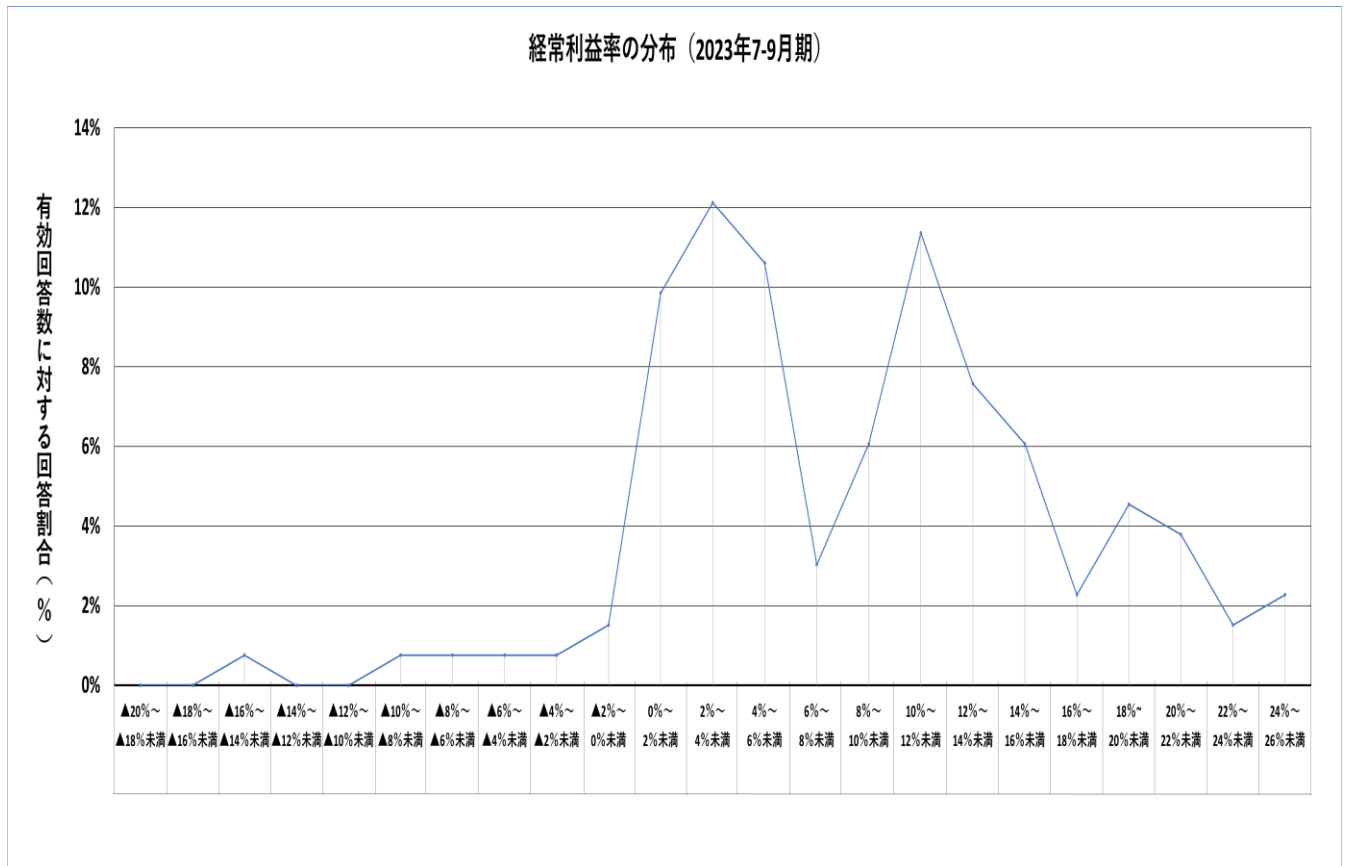
単位:トン

前年処理量	2022年7月	2022年8月	2022年9月	平均
	575,712	594,422	618,745	596,293
今年処理量	2022年7月	2022年8月	2022年9月	平均
	524,027	505,313	517,688	515,676
前年比	▲9.0%	▲15.0%	▲16.3%	▲13.5%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

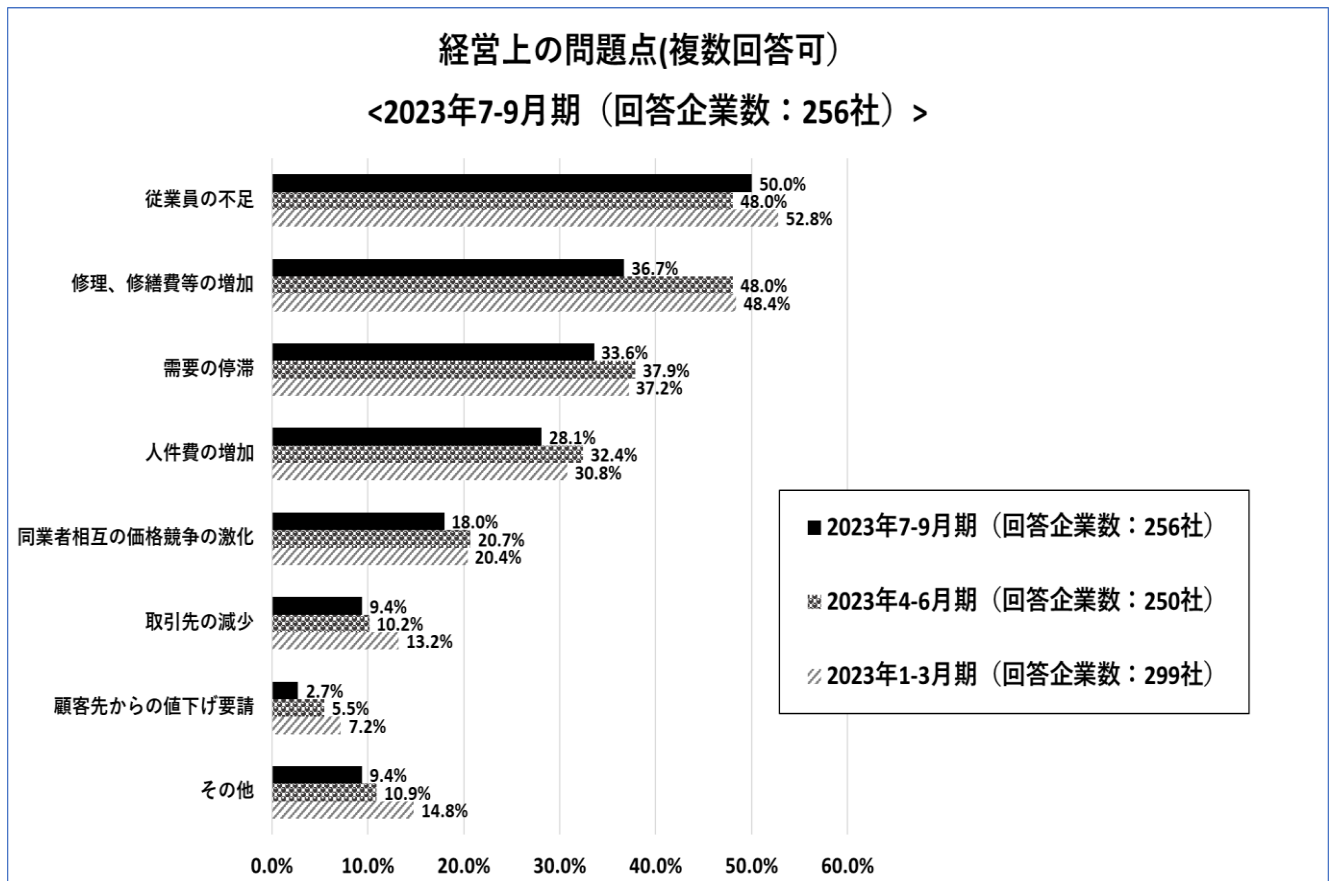
- 経常利益率の平均値は 7.5%で前年同期(9.4%)より悪化した。

有効回答数: 132 社



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、「従業員の不足」の回答割合が最も高かった。
- 「その他」の記述回答では、物価の高騰、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 燃料費の高騰
- ・ 物価の高騰
- ・ 最終処分場の受入制限及び処分費の値上げ
- ・ 公共工事の減少
- ・ インボイス制度による、免税事業者の対応と課税事業者への設備投資
- ・ 運送業界の2024年問題への対応

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2023年10月2日～10月31日

(3) 調査方法

Webによるアンケート

(4) 回答数・回答率

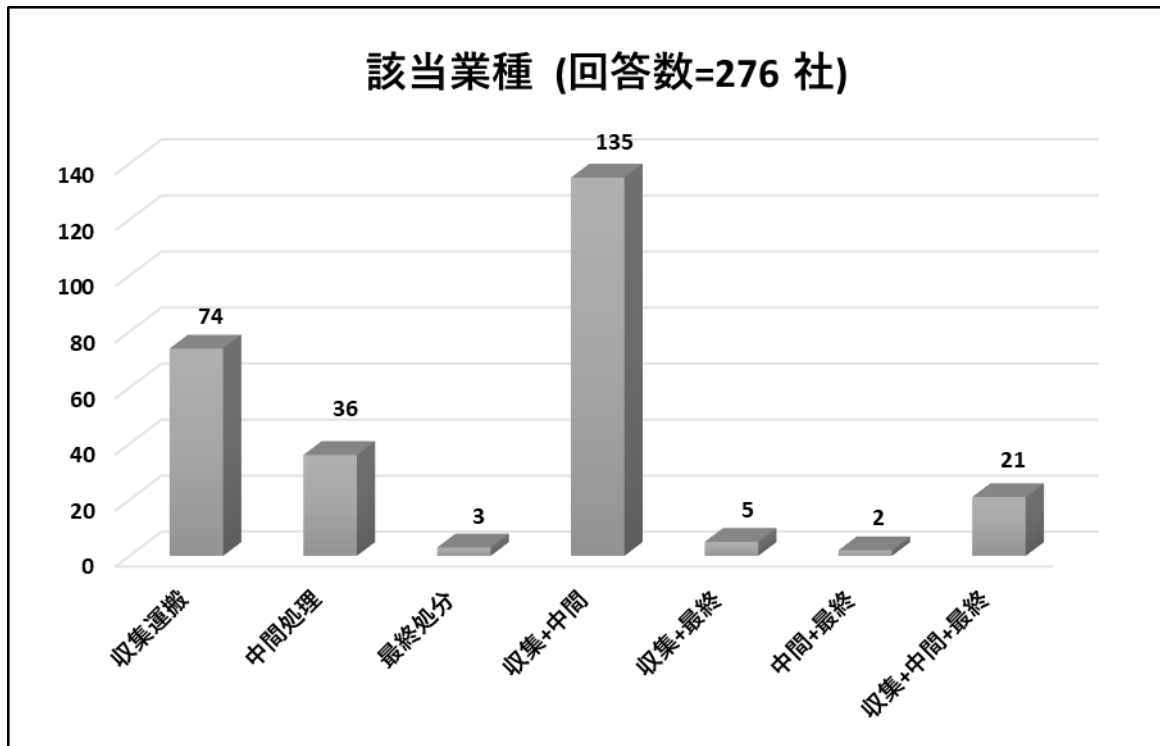
調査依頼企業数	1,251社
回答企業数	276社
回答率	22%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

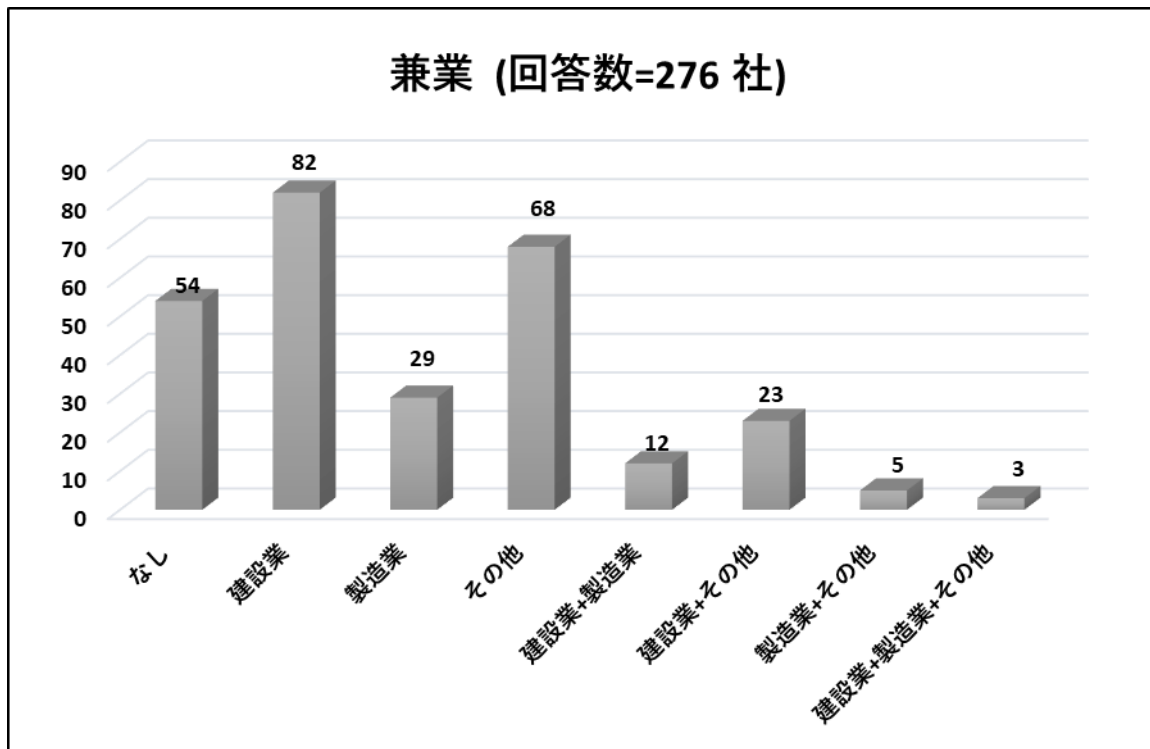
地域	企業数	構成比
北海道・東北	45	16.3%
関東	54	19.6%
信越・北陸	26	9.4%
中部	36	13.0%
近畿	28	10.1%
中国	21	7.6%
四国	31	11.2%
九州・沖縄	35	12.7%
合計	276	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	74	26.8%
中間処理	36	13.0%
最終処分	3	1.1%
収集+中間	135	48.9%
収集+最終	5	1.8%
中間+最終	2	0.7%
収集+中間+最終	21	7.6%
合計	276	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	54	19.6%
建設業	82	29.7%
製造業	29	10.5%
その他	68	24.6%
建設業+製造業	12	4.3%
建設業+その他	23	8.3%
製造業+その他	5	1.8%
建設業+製造業+その他	3	1.1%
合計	276	100.0%